（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079400190		
法人名	有限会社　亀ハウス		
事業所名	グループホーム　なごみ苑		
所在地	〒822-1201 福岡県田川郡福智町金田987番地　　℡0947-48-3222		
自己評価作成日	平成23年9月16日	評価結果確定日	平成23年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　北九州シーダブル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5－27　　℡　093-582-0294
訪問調査日	平成　23年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知症の方達を出来るだけその人の残っている機能を活かしながらゆっくりと安心して生活出来る様職員全員で援助し、地域の人達にも認知症を理解して頂き、家庭内でも実践出来る様に気楽に訪問出来る施設として地域に開かれたグループホームにしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「なごみ苑」は、周囲に福知町役場、保育園、小学校、交番等があり、利便性の良いグループホームである。玄関前の地域コミュニティーセンターは、行事や各種教室、山笠の保管場所として人の出入りが多く、教育、文化の中心地として活動が盛んである。病院を改築した3ユニットの広い建物で、家庭的な雰囲気を演出するために、施設長やリーダーを中心に努力を積み重ね今日に至っている。利用者の健康管理は、居宅療養管理指導を取り入れ、関係者と連携し、職員の的確な判断で24時間万全の体制である。また、町内会に加入し、亀の甲集会所の行事参加や、老人会よりホームの視察と意見交換会等の申し出があり、充実した地域交流が始まっている。今後は、地域のグループホームとして、住民の相談や悩み事の窓口として貢献していくことを検討している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所理念を玄関は入り口に掲示し朝礼後全員で唱和している。	「地域の人々との交流を図り、ホームの理解を高める」「利用者の残存機能を最大限生かした生活を見守る」「職員一同で豊かな老後を見守る」事を理念に掲げ、職員は毎日唱和し、理念を理解して実践に向けた取り組みをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の組に入りその地区の一員として参加出来る事は参加して交流している。	地域行事に、利用者と職員が参加する機会は少ないが、ホームの正面が集会所で、山笠の保管場所にもなっており、人通りも多く、利用者はホームの玄関に出て山笠見物をするなど、地域の一員としての交流が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援についてはまだまだ活かされていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度開かれ施設での状況や活動報告等を話し合いサービス向上に活かしている。	家族代表、地域住民参加の運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。近隣の老人会の代表が来訪してグループホームの話を聞きたいとの申し出があるなど、活発な意見、情報交換の場として重要な会議になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者とは現在、推進会議以外での施設の実情やケアサービスの取り組みは伝えられていない。	運営推進会議に行政職員が参加し、ホームの現状や課題を理解してもらっている。意見やアドバイス等受けているが、積極的な連携体制には到っていない。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については禁止の対象となる具体的な行為については理解している。利用者の状態に合わせ、ベッド柵を使用することもある。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、研修で職員全員に周知徹底し、身体拘束をしないケアを実践し、利用者の安全で安心した暮らしを見守る体制がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待については常に排泄のケアや入浴時に体の状態等十分に注意し確認しながら防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関してはグループホーム協議会での学習会で定期的に学習する機会があるが、活用する利用者はいない。	グループホーム協議会で制度について学び、内部学習会で職員全員が知識を共有し、利用者や家族がいざという時に制度を活用できる支援体制に取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約時に重要事項の説明や施設での生活について説明をし理解・納得してもらっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望等はいつでも受け入れているし反映させている。	職員は、家族が意見を出しやすい状態を作るために家族と親しく懇談する機会を作り、希望や苦情などを聴き取っている。また、出された意見を検討し、運営に反映させる努力をしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案はその都度聞いて速やかに反映させる様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体的には整備されているが、職場環境については建物が古いという事もあって働きづらいところもある。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても,その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に排除してはいない。職員についても自己実現の権利は保証されるよう配慮している。	職員の採用は、年齢、性別にこだわらず、真面目で高齢者が好きなことを重要視している。60歳定年制を設けているが、意欲のある職員は定年延長して仕事に取り組んでもらっている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の職員の勉強会で人権等の啓発に取り組んでいる。	接遇を含め利用者の人権を尊重することを大切に思う施設長は、人権の研修を実施し、職員に人権についての意識付けをし、理解を得て、人権教育・啓発活動に繋げている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会はその時々に応じて進めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は毎月のグループホーム協議会の中で交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が新しい施設での生活をする前に今までの生活状況、今後の要望等を話し合っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様に家族にも今後の生活にあたっての不安、要望等を話し合っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との会話でその他のサービスについても説明し対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミニュケーションがとれる方に対し希望や要望などを聞き笑ったり考えたりと共感している。コミニュケーションがとれない方に対しても常に声掛けする様心掛けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	苑だよりや来苑された際行事等の参加を呼びかけているが参加される家族が少ない。		
22	１１	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活を大切にしこれからもいい関係が継続出来る様支援している。	職員は利用者に寄り添い、日常の関わりの中で利用者から馴染みの人や行きたい場所などを聴聴き取り、友人・知人などや馴染みの場所との関係継続の支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにて利用者に合ったレクリエーションを実施し参加して頂いたりリハビリや利用者の希望・要望などを取り入れ外食会などを行い関わりや支え合う支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談や支援に努めているが現実は終了後はほとんど接触がない。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	１２	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	苑での生活状況や状態等把握した上で希望や意向を取り入れられる様支援している。困難な場合は検討し配慮しながら対応する。	年々重度化する利用者の思いや意向を把握するのが困難であるが、職員は利用者から落ち着いて話を聴く時間を設け、独り言や表情などから思いや意向を把握する努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスを利用する前に生活歴や環境について把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に一人ひとりの過ごし方や状態を把握しながら対応している。		
28	１３	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については担当職員、本人、家族、関係者と出来るだけ話し合い作成している。	介護計画は、利用者や家族の要望を聴き取り、主治医や職員間で検討し、3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、介護計画をその都度見直している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報は必ず共有し次回の介護計画に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に応じて柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりに応じて支援で暮らしを楽しめる様にしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重し出来るだけ適切な希望にあった医療を受けられる様支援している。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援をしている。また、提携医による2週間毎の往診や訪問看護、訪問歯科などを取り入れ、利用者の安全で安心な暮らしを支えている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問している医療関係者に日常の情報を伝え適切な医療を受けられる様にしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	居宅療養管理指導の医師や看護師との情報交換を行っており関係づくりに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については、家族、親戚ともに話し合い方針について早い段階から共有している。	利用者の重度化に伴い、職員一人ひとりの頑張りだけでなく、家族や関係者と方針を共有したうえでの協力体制が必要になることから、常に話し合い充実したケアに向けての支援体制を目指している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が急変時や事故発生時の対応については出来るわけではなく、今後の訓練によって一人でも多くの職員が対応出来る様にしていきたい。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については職員の知識、地域との協力関係はまだまだ遅れている。	毎年、消防署の指導のもと、避難訓練を実施しているが、今年度はうまく連携が取れず実施できていない。非常災害時に備えての非常食、飲料水の備蓄はある。	3ユニットで27名の利用者がいる中で、人命に関わる防災訓練は重要である。年2回、昼夜を想定し、地域住民参加の避難訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会や申し送りなどで常に言葉使いに注意を払い指導している。利用者一人ひとりの人格や誇りに対して欠けている部分がある為研修会で接遇マナーを学んでいる。	施設長は、利用者の人権を尊重することやプライバシーに関することを重要とし、接遇についての研修を繰り返し行うなど、力を入れている。また、職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、優しい声かけや誘導を実施している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が希望を表せたり自己決定出来る人は支援出来るが大部分の利用者が表出出来ていない。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムに出来る限り合わせ一人ひとりのペースでその人らしく過ごせる様支援に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月散髪店の方が来られ身だしなみを整えている。好きな服を選んでもらったり、外出の際の薄化粧やハンドマッサージ・ネイル・足浴などを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の後片付けや掃除を出来る範囲以内で一緒に行い食事の好みや食べたい物を聞き出し支援している。	食事は、利用者と職員が同じテーブルで会話をしながら楽しそうに食べている。また、一人ひとりの状態により、その力を活かしながら片付けなどを一緒に行っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた量、栄養、バランスについて支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行い不十分な方や治療が必要な方は歯科往診にて対応し清潔面に配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや排泄時間をスタッフがチェック表にて把握しなるべくパット内ではなくトイレで排泄出来る様支援している。又常にオムツを使用している方に対してはオムツかぶれや不快感がない様配慮している。	職員は、排泄チェックシートと利用者の習慣などから一人ひとりのパターンを把握し、トイレ誘導や声かけなど、利用者の動きを確認しながら実施している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを毎日行い働きかけに取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回であるが、利用者の状態に合わせ、柔軟に対応している。	入浴は基本的に週3回であるが、利用者の希望や状態に合わせ、楽しい入浴が出来るよう支援している。また、入浴を拒まれる方には、担当職員を代えたり、タイミングをずらしたりしながら出来るだけ入っていただけるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れる様休息出来る様に支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援について理解しており症状の変化の確認に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や出来る事を活かしレクリエーションや作業等に取り組んでいる。又嗜好品については手作りおやつを作ったり喫茶コーナーや行事などで喜んで頂いている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿っての外出支援を目指している。	老人農園への散歩、畑仕事、買い物、外食など、出来るだけ利用者の希望に添うための支援をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者全員については出来ていない。又利用者個人の理解度にもよる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの状態もあるが支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間全てには出来ていない。	病院を改築し、3ユニットのグループホームとして、使いやすく住みやすい共用空間になるように、毎年工夫を重ねている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者に合った居場所の工夫は出来ている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の希望に合った部屋作りをしている。	居室は、利用者や家族の希望を大切に、馴染みの家具や使い慣れた小物を持ち込み、出来るだけ自宅と違和感なく、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全に快適に過ごせる様工夫している。		